（記者発表資料）　　平 成 ２ ９ 年 ６ 月 ８ 日
公益財団法人 放送文化基金

第４３回「放送文化基金賞」表彰対象について

放送文化基金賞は、過去１年間（平成 28 年４月～29 年３月）の放送の中から選ばれた、優れたテレビ、ラジオ番組や個人・グループに毎年贈られる賞です。今回は、全国の民放、ＮＨＫ、プロダクションなどから、全部で２７７件の応募、推薦がありました。４月から約２か月にわたる厳正な審査の結果、テレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの４つの番組部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の１６番組と、演技賞や企画賞など個人６件、さらに個人・グループ部門の放送文化、放送技術で８件の受賞が決まりました。

受賞番組のうち最優秀賞は、テレビドキュメンタリー番組『ＮＨＫスペシャル ある文民警察官の死 ～カンボジアＰＫＯ　２３年目の告白～』（ＮＨＫ大阪放送局）、テレビドラマ番組『土曜ドラマ トットてれび』（ＮＨＫ）、テレビエンターテインメント番組『ザ･プレミアム　寅さん、何考えていたの？渥美清・心の旅路』（かわうそ商会、ＮＨＫエンタープライズ、ＮＨＫ）、ラジオ番組『メロディーの向こうに～童謡・唱歌の世界～』（山口放送）に贈られます。

さらに、『土曜ドラマ トットてれび』（ＮＨＫ）に出演した満島ひかりさんと、『土曜ドラマ 夏目漱石の妻』（ＮＨＫ）に出演した長谷川博己さんに演技賞が贈られます。

個人・グループ部門の放送文化では、宮﨑 賢さん（ＲＳＫプロビジョン カメラマン）など４件、放送技術では、関西テレビ放送の「プロキシ編集プラットフォーム開発グループ」など４件が受賞します。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、番組部門最優秀賞―１００万円、優秀賞―５０万円、奨励賞―３０万円、番組部門の個人賞―２０万円、個人・グループ部門―３０万円です。

贈呈式は、平成２９年７月４日（火）午後４時３０分からホテルオークラ東京で行います。

第４３回「放送文化基金賞」表彰対象

１．　番組部門――――１６番組、６件

（１）テレビドキュメンタリー番組……５番組
最優秀賞―１　優秀賞―１　奨励賞―３

（２）テレビドラマ番組……４番組
最優秀賞―１　優秀賞―１　奨励賞―２

（３）テレビエンターテインメント番組……４番組
最優秀賞―１　優秀賞―１　奨励賞―２

（４）ラジオ番組……３番組
最優秀賞―１　優秀賞―１　奨励賞―１

（５）個人……６件
「演　　技　　賞」――２件
「演　　出　　賞」――１件
「制　　作　　賞」――１件
「映　　像　　賞」――１件
「企　　画　　賞」――１件

２．　個人・グループ部門――――８件

（１）放送文化……４件

（２）放送技術……４件

お問い合わせ先
放送文化基金（担当　安部、川副）
東京都渋谷区宇田川町41―1　共同ﾋﾞﾙ５F
TEL（０３）３４６４－３１３１

第４３回「放送文化基金賞」受賞一覧

部門		賞（賞金）	受賞者	番組名・業績
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	最優秀賞（100万円）	ＮＨＫ大阪放送局	ＮＨＫスペシャル　ある文民警察官の死 ～カンボジアＰＫＯ　２３年目の告白～
		優秀賞（50万円）	チューリップテレビ	はりぼて　腐敗議会と記者たちの攻防
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ熊本放送局、ＮＨＫ福岡放送局	ＥＴＶ特集　水俣病　魂の声を聞く ～公式確認から６０年～
		奨励賞（30万円）	テレビ愛媛	じいちゃんの棚田
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ広島放送局	ＮＨＫスペシャル　決断なき原爆投下 米大統領　７１年目の真実
	テレビドラマ番組	最優秀賞（100万円）	ＮＨＫ	土曜ドラマ　トットてれび
		優秀賞（50万円）	ＮＨＫ	土曜ドラマ　夏目漱石の妻
		奨励賞（30万円）	ＴＢＳテレビ	火曜ドラマ 逃げるは恥だが役に立つ
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ	ＮＨＫスペシャル 「未解決事件」File.5 ロッキード事件
	テレビエンターテインメント番組	最優秀賞（100万円）	かわうそ商会、ＮＨＫエンタープライズ、ＮＨＫ	ザ･プレミアム 寅さん、何考えていたの？渥美清・心の旅路
		優秀賞（50万円）	テレビ朝日	古舘トーキングヒストリー ～忠臣蔵、吉良邸討ち入り完全実況～
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ札幌放送局、ＮＨＫ旭川放送局	天空のお花畑　大雪山“小さな賢者”の物語
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ熊本放送局	ＥＴＶ特集　１５歳 私たちが見つけたもの ～熊本地震　３年３組の半年～
	ラジオ番組	最優秀賞（100万円）	山口放送	メロディーの向こうに～童謡・唱歌の世界～
		優秀賞（50万円）	ＮＨＫ仙台放送局	震災ラジオ特集「３．１１若者たちは、いま」
		奨励賞（30万円）	信越放送	ＳＢＣラジオスペシャル 受話器の向こうから～026-237-0555
		演技賞（20万円）	満島ひかり	土曜ドラマ　トットてれび
		演技賞（20万円）	長谷川博己	土曜ドラマ　夏目漱石の妻
		演出賞（20万円）	柴田岳志、榎戸崇泰	土曜ドラマ　夏目漱石の妻
		制作賞（20万円）	五百旗頭幸男	はりぼて　腐敗議会と記者たちの攻防
		映像賞（20万円）	鈴木友史、村井陽亮、若松元明、周東昭彦	天空のお花畑　大雪山“小さな賢者”の物語
		企画賞（20万円）	笠原公彦	ＳＢＣラジオスペシャル 受話器の向こうから～026-237-0555
個人・グループ部門	放送文化	（30万円）	宮﨑　賢 （ＲＳＫプロビジョン カメラマン）	35年にわたるハンセン病強制隔離の実態についての継続映像報道
		（30万円）	阿武野勝彦 （東海テレビ放送 プロデューサー）	優れたドキュメンタリー番組の制作、その多角的な展開と牽引
		（30万円）	三宅民夫 （ＮＨＫ　アナウンサー）	幅広い分野で卓越したアナウンス技術を発揮
		（30万円）	「テレビ寺子屋」制作スタッフ （テレビ静岡）	40年にわたり家庭教育について考える番組を制作
	放送技術	（30万円）	スーパーハイビジョン試験放送用受信機開発グループ（ＮＨＫ、シャープ） 代表　原　哲（ＮＨＫ）	スーパーハイビジョン試験放送用高度ＢＳデジタル受信機の開発
		（30万円）	SDI-Hyper開発プロジェクト 代表　吉村理希（フジテレビジョン）	超高速データ伝送装置「SDI-Hyper」の開発
		（30万円）	プロキシ編集プラットフォーム開発グループ 代表　小池　中（関西テレビ放送）	アーカイブ統合型ニュース制作システム～プロキシ編集プラットフォームの開発
		（30万円）	手話ＣＧ生成システム開発グループ 代表　東　真希子（ＮＨＫ）	気象情報の手話ＣＧ生成システムの開発

＊番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第４３回 放送文化基金賞
「 番 組 部 門 」
― テ レ ビ ド キ ュ メ ン タ リ ー 番 組 ―

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
ＮＨＫスペシャル ある文民警察官の死 ～カンボジアＰＫＯ ２３年目の告白～ 平成 28. 8. 13（土） ＮＨＫ大阪放送局	語り　広瀬　修子 撮影　馬嶋　順也 照明　戸井　敦郎 ＣＧ　タニスタ 音響効果　日下　英介 編集　黒田　学 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　旗手　啓介 松井　大倫 新山　賢治 制作統括　三村　忠史	1993 年 5 月のカンボジア。日本が初めて本格的に参加したＰＫＯ＝国連平和維持活動で、現地に派遣されていた日本人警察官が武装勢力に銃撃され命を落とした。しかし、銃撃事件から 23 年間、カンボジアＰＫＯの内実については殆ど検証されてこなかった。現場で一体何が起きていたのか。ＮＨＫは、これまで口を閉ざしてきた日本人警察隊の隊員たちから証言を得ると共に、隊員たちが現地で撮影していた未公開の映像など一次資料の提供を受けた。そこから見えてきたのは、ＰＫＯ参加の原則である「停戦合意」とは名ばかりの厳しい現実だった。中には、ＰＫＯ違反と知りながら、自らの身を守るために自動小銃を密かに調達していたと語る隊員たちさえいた。安全保障関連法が施行され、戦後日本の安全保障政策が大きく転換した中で、文民警察官たちの“23 年目の告白”は、私たちに何を突きつけるのだろうか。	1970 年代に起きたカンボジア内戦の結果、ポルポト派による残酷な独裁政権が国民を大量虐殺、それに対応するために国連のＰＫＯ部隊に日本も参加、しかし我が国は憲法によって自衛隊の参加は認められず、止むを得ず政府が武器をもたない警察官を派遣することになり、警官の一人が射殺されるまでに至る悲劇を追求。それが現在の海外派遣された自衛隊の武器使用の題と重ねあわされ、重く問いかけてくる。その意味では海外に派遣されている自衛隊の武器使用の有無が問われている現在の緊急課題と深く重なりあうものであった。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防 平成 28. 12. 30（金） チューリップテレビ	ﾅﾚｰｼｮﾝ　山根　基世 声の出演　佐久田　脩 取材　砂沢　智史 村林　忠典 小澤　真実 安倍　太郎 毛田千代丸 京極　優花 谷口　菜月 高岸奈々子 越　大地 音楽　矢崎　裕行 ＭＡ　山田　良平 ＣＧ　田口　衛 撮影・編集　西田　豊和 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　五百旗頭幸男 番組デスク　宮城　克文 ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　中村　成寿 制作統括　服部　寿人	昨春、富山市議会で年収約 1000 万円の市議たちが、議員報酬の月 10 万円引き上げを画策した。主導した市議会のドンは「次代を担う若者が出てこられない」と主張した。その後、第三者による審議会がわずか 3 時間の審議で市長に答申すると、その通りに報酬引き上げは議会で可決された。情報公開度が全国最低レベルのこの市議会では、議員の居眠りは日常茶飯事だ。緩みきった議会と、そこに君臨するドン。疑問を抱いた記者たちは政務活動費の情報公開請求に踏み切る。これをきっかけに白日の下にさらされたのは、不正取得が常態化した『腐敗議会』の姿だった。	富山市の市議会議員たちが領収証を偽造して政務活動費を不正に得ていた事件を追及。裏付けられた事実を前に、議員たちが次々と謝罪に追い込まれて行く様子をつぶさに伝え、地方局ならではの密着取材がいきいきと描かれていた。

奨　励　賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
ＥＴＶ特集 水俣病　魂の声を聞く　～公式確認から６０年～ 平成 28.5.28（土） ＮＨＫ熊本放送局 ＮＨＫ福岡放送局	ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　吉崎　健 取材　東島　大 撮影　中島　広城 音声　鬼塚　明敏 編集　渡辺幸太郎 音響効果　小野　潤二 語り　上田　早苗 ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　岩下　宏之 制作統括　石津　雅 福島　広明 浦林　竜太 出演　田中　実子 下田　綾子 下田　良雄 生駒　秀夫 渡辺　栄一 坂本美代子 岡本　達明 坂本しのぶ 坂本フジエ 日吉フミコ	水俣病初期の患者や家族の肉声を記録した貴重な録音テープが残されていた。岡本達明さん（81）は、加害企業・チッソの元社員。40 年にわたり 500 人以上の証言を集めた。番組では、録音された肉声に加え、新たな証言を集め、去年５月１日、公式確認から 60 年を迎えた水俣病を辿った。 “第１号患者”田中実子さん（63）は、亡くなった母親が、娘の発病当時を語っていた。「誰も寄りつかんじゃった。村八分にされて」。面倒を見続ける姉の綾子さんは、苦渋の表情で語った。「できれば、私より早く…。私も安心して逝ける」。水俣病患者・家族の心の叫びを聞く。	これまで幾度か水俣病をテーマにした作品が評価されてきたが、この作品は水俣病発見 60 周年を契機に公害の悲惨さが問われている。この作品のラストカット、かつて幼い子供であった女性が発病、それ以来五十数年にわたって悲惨な痙攣症状を示している姿に、誰しもが接し涙せざるを得ないだろう。
じいちゃんの棚田 平成 28.9.12（月） テレビ愛媛	ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　片上　裕治 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ・撮影・編集　友近　晶二 ﾅﾚｰｼｮﾝ　名護谷希慧 ＣＧ　大政　豪 出演　上岡　満栄 淳恵	愛媛県の山間にある内子町。ここで暮らす上岡満栄さん（72）は、みんなから“棚田のじいちゃん”と呼ばれている。山の中にある“泉谷の棚田”を３軒の高齢農家が守ってきたが、上岡さんはその中で一番の若手。上岡さんの楽しみは毎年田植えや稲刈りの体験にやってくる地元の小学生たちとの交流。しかし、その小学校も閉校の日をむかえる。“泉谷の棚田”をどう受け継いでいくのか、閉校後の町はどうなるのか･･･。“棚田”の四季と、そこに暮らす“じいちゃん”を 4 年にわたって取材し、高齢・過疎に直面する四国の小さな集落の未来を見つめる。	これほど心が温まり、かぎりなく美しいと感じる作品も珍しいだろう。愛媛県の山深い村落で、老父婦が伝来の棚田で働く日常を描いたものである。この苛酷な作業を継ぐ人もなく、今後の行く末が懸念されるなか、小学校の生徒たちが参加、田植えから稲刈りに至るまでをする姿が微笑ましく描かれている。
ＮＨＫスペシャル 決断なき原爆投下 米大統領　７１年目の真実 平成 28.8.6（土） ＮＨＫ広島放送局	語り　伊東　敏恵 撮影　森山　慶貴 音声　土肥　直隆 照明　遠藤ｱﾚｯｸｽ 映像ﾃﾞｻﾞｲﾝ　荒川　靖彦 音響効果　小野さおり 編集　佐塚　恭平 ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　山田功次郎 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　葛城　豪 花井　利彦 制作統括　高倉　基也	1945 年８月、人類の上に投下された原子爆弾。広島と長崎では、その年だけで21万人以上の命が奪われた。アメリカで原爆投下は、トルーマン大統領が明確な意思のもとに決断した“意義ある作戦だった”という捉え方が一般的だ。しかし、今、その定説に疑問の声が上がり始めている。投下の意思決定は、終始、軍が主導で行い大統領は追随する他なかったというのである。今回、私たちは原爆開発の責任者を務めていた陸軍・グローブス将軍の肉声を録音した未公開テープや、政権中枢の文書など、各地に散逸していた機密資料を徹底検証、原爆投下 71 年目の真実に迫った。	オバマ前大統領の広島訪問は昨年度の大きなニュースだった。それを契機に原爆を投下させたトルーマン元大統領の揺れ動く判断、そして原爆製造を主導した軍部のありようを問うものだが、長年にわたり原爆の悲劇を追求してきた制作者への評価は高い。

第４３回 放送文化基金賞

「 番 組 部 門 」

－ テ レ ビ ド ラ マ 番 組 －

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
土曜ドラマ トットてれび 平成28.4.30（土） ～6.18（土） 〈全７回〉 応募は第１回、３回 ＮＨＫ	原作　黒柳　徹子 脚本　中園　ミホ 音楽　大友　良英 Sachiko M 江藤　直子 制作統括　加賀田　透 ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　訓覇　圭 高橋　練 取材　小松　昌代 演出　井上　剛 川上　剛 津田　温子 出演　満島ひかり 中村　獅童 錦戸　亮 ミムラ 濱田　岳 安田　成美 松重　豊 大森　南朋 武田　鉄矢 吉田　栄作 岸本加世子 吉田鋼太郎 黒柳　徹子 ほか 語り　小泉今日子	テレビとともに生きてきた黒柳徹子の自伝的エッセイ「トットチャンネル」「トットひとり」をドラマ化。前半はテレビ草創期の現場に飛び込んだ徹子の奮闘を描く「青春編」、後半は徹子と大切な人たちとの交流を描く「友情編」。 　昭和28年、20歳の徹子（満島ひかり）は、ＮＨＫがテレビ放送開始にあたって専属俳優を募集していることを知り受験する。筆記試験も面接も失敗続きだったがなぜか合格。ラジオドラマやテレビのバラエティショーにエキストラとして出演するが、目立ち過ぎて叱られてばかり。ディレクターの伊集院（濱田岳）から、「個性が邪魔」と言われてしまう。 　徹子は、生ドラマ「若い季節」でレギュラーになり、渥美清（中村獅童）や坂本九（錦戸亮）と共演する。生ドラマにはハプニングがつきもの。ある日の放送では、セットが壊れたり、脚本が遅いため出演者がセリフを憶えていなかったりで大混乱。徹子は持ち前の機転と早口で、放送中止の危機を見事に救う。	最優秀賞は満場一致で即決した。テレビ黎明期の懐かしい昭和の活気をくっきりと伝え、生放送で番組を作っていた現場性を魅力ある多彩なキャストの力を結集して再現した。それが単に再現にとどまらず、今その場で番組を作っている楽しさとして表現しえたメタドラマ性こそが本作の秀逸さであろう。昭和の時代への最高の敬意を籠めつつ、古き良き時代のパワーが現代でも有効であることを示す幸せな番組となった。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
土曜ドラマ 夏目漱石の妻 平成28.9.24（土） ～10.15（土） 〈全４回〉 応募は第１回、４回 ＮＨＫ	作　池端　俊策 岩本　真耶 原案　夏目　鏡子 松岡　譲 「漱石の思い出」 音楽　清水　靖晃 制作統括　吉永　証 中村　高志 演出　柴田　岳志 榎戸　崇泰 出演　尾野真千子 長谷川博己 黒島　結菜 満島真之介 竹中　直人 舘　ひろし ほか	時代は明治。裕福な家庭に育った中根鏡子は、19 歳の時、父・重一にすすめられ夏目金之助（漱石の本名）と見合いをして結婚、熊本で新婚生活を始める。頭脳明晰だがとんでもなく気難し屋の金之助。一方大らかで、自分の考えをすぐ口にするタイプの鏡子。二人はぶつかり合いながら夫婦としてともに歩み始める。 　教員だった金之助は、英国留学を経てやがて小説家としてデビュー、数々の名声を得る。しかし、鏡子にとって神経症を患う夫との生活は、常に苦難の連続だった。 　明治という激動の時代を駆け抜け、夫婦として成長していく二人の姿を、妻・鏡子の視点で描く物語。	演出、美術などのスタッフワークがすばらしく、きわめて質の高い作品となった。妻を演じた尾野真千子と漱石を演じた長谷川博己の演技が抜群で、新たな漱石像を示し得た点が評価された。

奨　励　賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
火曜ドラマ 逃げるは恥だが役に立つ 平成 28.10.11（火） ～12.20（火） 〈全 11 回〉 応募は第 1 回、11 回 ＴＢＳテレビ	脚本　野木亜紀子 原作　海野つなみ ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　那須田　淳 峠田　浩 宮崎真佐子 演出　金子　文紀 土井　裕泰 石井　康晴 出演　新垣　結衣 星野　源 大谷　亮平 藤井　隆 古田　新太 石田ゆり子 ほか	「職なし、彼氏なし、居場所なし」の主人公・森山みくり（新垣結衣）が、恋愛経験が無く、超真面目な独身サラリーマン・津崎平匡（星野源）と、ひょんなことから「仕事としての結婚」をすることになる。夫＝雇用主、妻＝従業員という雇用関係で恋愛感情を持たないはずが、同じ屋根の下で暮らすうち、徐々にお互いを意識し始めてしまう。はたして、二人の契約結婚の行方は !?　新しい「夫婦」の形、そして「仕事」について考えさせられるとともに、個性豊かな登場人物たちとの人間関係を交え、生き方の多様性を認め合うことも描いた、新感覚の社会派ラブコメディ！！	現代の若者の生き方を劇的に映し出した〝時代の鏡〟であるとして評価された。若い人たちの生き方の選択肢の多様さをコミカルにドラマ化した点が特に優れていた。
ＮＨＫスペシャル 「未解決事件」 File.5 ロッキード事件 平成 28.7.23（土） ＮＨＫ	演出　堀切園健太郎 脚本　鈴木　智 美術　川口　直次 音響効果　小野さおり 撮影　大和谷　豪 編集　阿部　格 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　小川　海緒 佐野　剛 制作統括　中村　直文 松本　卓臣 出演　松重　豊 石橋　凌 苅谷　俊介 村井　國夫 国広　富之 眞島　秀和 大場　泰正 石井　正則 徳井　優 橋本　じゅん ほか	戦後最大の疑獄「ロッキード事件」。米・ロッキード社製の旅客機トライスターの売り込みをめぐり、日本の政財界に巨額の賄賂が渡り､5 億円を受け取ったとして田中角栄前首相が逮捕された。しかし、東京地検特捜部が当初重視していた〝戦後最大のフィクサー〟児玉誉士夫と対潜哨戒機Ｐ3Ｃをめぐる疑惑は解明されず、21 億円もの巨額のカネの行方は闇に葬られた。果たしてロッキード事件の「全貌」とは？事件から 40 年。ＮＨＫは発掘された特捜部の極秘ファイルなど第一級の資料や関係者の証言をもとに、事件の舞台裏を映像化。実録ドラマとして甦らせた。	ドキュメンタリードラマとして優れていた。過去の映像、資料を駆使して、バランスよく事実を呈示していく見識の高さは他には真似できないものであろう。

第４３回 放送文化基金賞
「 番 組 部 門 」
― テレビエンターテインメント 番 組 ―

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等		概　　要	選 考 理 由
ザ・プレミアム 寅さん、何考えていたの？渥美清・心の旅路 平成 28.7.30（土） かわうそ商会 ＮＨＫエンタープライズ ＮＨＫ	ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ カメラ 音声 照明 編集 音響効果 ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ 制作統括 出演(語り) （朗読）	正岡　裕之 夏海　光造 水野　宏重 永峯　康弘 井之上大輔 石田　厚 佐倉　和久 影山　正美 金田　智子 後藤　沙希 伊藤　純 稲毛　重行 吉永小百合 長谷川勝彦 山田　洋次 倍賞千恵子 浅丘ルリ子 前田　吟 笹野　高史 黒柳　徹子 早坂　暁 矢崎　泰久 淺井　慎平 金子　兜太 立川志らく 名越　康文 堀本　裕樹 黒崎めぐみ	今も“寅さん”と日本国民に慕われる渥美清が亡くなって 20 年。その心のうちを解き明かす手がかりが残されている。渥美清が風天（フーテン）の俳号で詠んだ 200 を越える俳句である。 「お遍路が一列に行く虹の中」「花道に降る春雨や音もなく」・・・ 番組では、“寅さん”の名場面を織り込みながら、俳句に渥美が込めた心情を親交のあった人々の証言から読み解く。それぞれに違う立場で渥美さんと関わってきた人たちが、自分の解釈で俳句を読み、自分の知っている渥美清と結び付けて語っている。倍賞千恵子さん、山田洋次監督といった近い人々からはじまって、精神科医の名越康文さんや俳人の金子兜太さんまで、だれが語る渥美清も、これまで見たことのない顔をもって立ち現れてくる。 “マドンナ”として共演した吉永小百合の語りでお届けする。	挿入される数々の俳句が、渥美清という俳優の心の奥底の屈折を想像させて余すところがない。 渥美さんが選ぶ言葉は、あの寅さんからは想像できない鮮烈なものである。句が型にとらわれない自由律であることも、いかにも渥美さんらしい。あなたはスクリーンの奥で、本当は何を考えていたのか。 俳句によって渥美清を見事に語って見せた秀作である。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等		概　　要	選 考 理 由
古舘トーキングヒストリー～忠臣蔵、吉良邸討ち入り完全実況～ 平成 28.12.10（土） テレビ朝日	統括 構成 脚本 監督 演出 ｴｸｾｸﾃｨﾌﾞﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ 編成 監修 出演	奥川　晃弘 樋口　卓治 鮫肌　文殊 中村由加里 中川　裕介 木津　優 樋口　圭介 菅原　悠平 大岩タカユキ 吉村　周 中島　康夫 古舘伊知郎 緒形　直人 西村　雅彦 笹野　高史 名取　裕子 伊集院　光 磯田　道史 秋元　真夏	日本人にはお馴染みの年末風物詩、『忠臣蔵』。しかし私達が抱くイメージは、後年の演劇化により作られたものも少なくありません。そこで、100 年以上忠臣蔵を研究する「中央義士会」の考察をもとに、討ち入りの“新事実”を盛り込んだ新たな『忠臣蔵』の脚本を作成。東映とタッグを組み、吉良邸のセットにて豪華俳優陣によるドラマを撮影。さらに古舘伊知郎が現場にタイムスリップし、討ち入りの模様を実況中継するという斬新な手法に挑戦しました。 スタジオでは歴史学者・磯田道史による熱い解説も。ドラマ×実況×トークの三層構造で、これまでの『忠臣蔵』考察に一石を投じます。	幾重にもフィクションを塗り重ねられ、日本人好みに作られてきた忠臣蔵のヴェールを、古舘の巧みな語りで一枚ずつはがしていく面白さ。 なかでも吉良邸の長屋にいた護衛集団がなぜ機能しなかったのかという磯田氏の話が出色だった。

奨　励　賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等		概　　要	選 考 理 由
天空のお花畑　大雪山“小さな賢者”の物語 平成 28. 10. 10（月） ＮＨＫ札幌放送局 ＮＨＫ旭川放送局	制作統括 ﾁｰﾌﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ 編集 音響効果 撮影 映像技術 映像ﾃﾞｻﾞｲﾝ ＣＧ制作 墨絵制作 出演 ﾅﾚｰｼｮﾝ	佐藤　仁志 黒田未来雄 田辺　陽一 太田　尚宏 鈴木　洋平 遠藤　晃弘 佐々木堅司 鈴木　友史 村井　陽亮 若松　元明 周東　昭彦 日髙　一平 山﨑さおり 横須賀令子 壇　蜜 福岡　伸一 工藤　岳 松川　新	2 千メートル級の山々が連なる北海道の屋根、大雪山。冬には 20ｍもの深さの雪に閉ざされる高原は、夏、200 種類以上の高山植物が咲き乱れる、日本一のお花畑に姿を変える。かれんな花々は短い夏、厳しい高山で子孫を残していくため、進化の歴史の中で身につけた「知恵」を駆使する。太陽の動きに合わせ回転する花や、天候の変化を予知して花びらを開閉させる花、花びらの色を変化させることでハチの行動を操る花など。高精細 4K撮影やハイスピード、コマ撮りを駆使した圧巻の映像。壇蜜さんをナビゲーターに、ミクロのスペクタクルを案内する。	4K撮影やコマ撮りなどの技術を駆使し、じっくりと時間をかけて、息をのむような美しい画面を作り上げた。 科学番組ともいうべき硬質な内容と、花畑訪問者として登場する壇蜜との取り合わせがおもしろい効果を上げている。
ＥＴＶ特集 15 歳 私たちが見つけたもの～熊本地震 3 年 3 組の半年～ 平成 28. 12. 10（土） ＮＨＫ熊本放送局	撮影 音声 映像技術 映像ﾃﾞｻﾞｲﾝ 音響効果 編集 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ 制作統括 出演	筒井　正樹 中島　広城 白川　雅生 沖　憲明 鈴木　歩 野島　嘉平 最上　淳 草場　一友 小堀　友久 松田　望 太田　良一 鶴谷　邦顕 益城町立木山中学校三年三組 原田　もえ 沼野　佳蓮 吉山　昇汰	2016 年 4 月の熊本地震において、2 度の震度 7 に襲われた熊本県益城町にある木山中学校。 そこで学ぶ、2 年生の半年を記録した。自宅や思い出の場所を失い、転校する友人との別れも経験した子どもたち。しかし、そんな中でも、子どもたちは部活動や体育大会に打ち込み、仲間と心を一つに合唱コンクールで歌う。変わり果ててしまった町で、時に涙しながらも、お互いに支え合い、たくましく生きていく。多感な年代で死に直面する体験をし、人生を問い直しながら歩む 15 歳。 あるクラスを定点記録し、被災地で生きる子どもたちの様々な青春を見つめた。	震災が子供たちの柔らかい心にどんな傷を負わせ、どんな影を落とすのか、大人にはなかなか見えない。 口下手で、遠慮深い少年、少女の気持をこまかくすくい取り、厳しい条件のもとでも逞しく成長する姿を描いて気持のいい青春レポートにした。

第４３回 放送文化基金賞
「 番 組 部 門 」
― ラ ジ オ 番 組 ―

最 優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
メロディーの向こうに～童謡・唱歌の世界～ 平成 29.3.26（日） 山口放送	ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　黒瀬　哲成 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　大谷　陽子 構成　佐々木　聰 ﾅﾚｰｼｮﾝ　丹黒香奈子 出演　山田　真治 まど・みちお 野口不二子 大中　恩	こどもたちに育んであげたい空想の世界が描かれた童謡「赤い鳥小鳥」。作者が我が子への愛おしさを詩に託した「七つの子」。「ぞうさん」は、違いを認め合い自分に生まれた喜びを持ってほしいというメッセージを込めて作られました。「蝶々」「シャボン玉」「カナリヤ」…。童謡や唱歌には、親子の愛情や命の大切さ、日本語の美しさ、思いやり、平和への願い…様々な思いが込められています。 そんな作者の思いをこどもたちに伝えたいと、大学教授の山田真治さんは童謡・唱歌を広める活動をしています。「ぞうさん」を作詩したまど･みちお（故人）は、母校の小学生を前に思いを届けました。童謡詩人・野口雨情の孫、不二子さんは、各地の講演会で祖父の想いを伝えます。 次の時代にも歌い継ぎたい童謡・唱歌。一方で、歌がこどもたちに戦争をすり込むために使われた時代もありました。 来年は、童謡が誕生して 100 年。メロディーの向こうにある世界を探ります。	戦前・戦後を通じて、その時代の最良の詩人たちと作曲家たちによって、多くの童謡や唱歌が作られてきた。最近、あまり聞かれることがなくなったけれど、いつでもだれでも口ずさむことができるし、日本人の言葉の感性や美意識を形成するのに最も力のあったことを再確認させてくれる。番組はそれを衒うことなく正面から取り上げて、関係者たちの証言も交えて紹介する。生真面目な態度が、聴取者の心を揺さぶる。

優 秀 賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等	概　　要	選 考 理 由
震災ラジオ特集 「３．１１若者たちは、いま」 平成 29.3.11（土） ＮＨＫ仙台放送局	ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ　小寺　康雄 ﾃﾞｽｸ　堀　伸浩 津田　喜章 ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　新井　隆太 千葉美乃梨 中継ﾃﾞｽｸ　平野　哲史 出演者ﾃﾞｽｸ　塚原　泰介 ﾘﾎﾟｰﾀｰ　大嶋　貴志 今井　翔馬 手嶌　真吾 藤重　博貴 ﾒｰﾙ、twitter 対応　塚本　貴之 出演　尾木　直樹 クミコ 雁部那由多 津田穂乃果 相澤　朱音 菊地　将兵 大坂　航平 中山準之助	6 年前の 3 月 11 日。被災地の子どもたちは、身の回りの全てが崩壊し、身近な命が奪われていく現実に直面した。いま彼らの多くは、自分の力で行動できる歳へと成長を遂げ、様々な活動に取り組んでいる。風化を防ごうと、全国各地で壮絶な体験を語る高校生の語り部や、震災を語り継ぐ木製の碑を作った高校生。あるいは社会人となり、夢に向かって努力を始めた震災遺児や、風評と闘う福島の若手農家もいる。自らの考えで行動を起こした若者と、教育評論家の尾木直樹さん、震災当日石巻で被災した歌手のクミコさんが語り合い、被災地の未来を探った。	震災 6 年目の追悼の式の生中継を挟んで、その後の若者たちの声を拾い、あの震災が何をもたらしたのか、現地から伝えていく。123 分の生ワイド番組を、周到な準備をもとに、緊張感をもって作りあげた。感動的である。

奨　励　賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者 等		概　　要	選 考 理 由
SBC ﾗｼﾞｵｽﾍﾟｼｬﾙ 受話器の向こうから ～026-237-0555 平成 28.5.29（日） 信越放送	ﾌﾟﾛﾃﾞｭｰｻｰ ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ ﾅﾚｰｼｮﾝ 電話ｵﾍﾟﾚｰﾀｰ	西沢　透 笠原　公彦 小林万利子 堀　　洋子 柳沢　朝江 小池美穂子 野沢　由紀	東京発のネット番組やラジコプレミアムで県外のラジオ番組を聴いていると、メッセージの受付は「メールとＦＡＸ」のみが多い。しかしＳＢＣラジオでは、いまも電話でリスナーからメッセージを募集していて、毎日平均 50 件の電話がかかってくる。いったいどんな人たちがどんな電話をかけてくるのだろうか？ 受話器を通して語られる笑い、ドラマ、そしてリスナーの人生。普段電波にはのらないラジオの裏側を取材してみた。 また今回、ＡＭ、ＦＭ・短波の民放ラジオ 101 社とＮＨＫに「リスナーからのメッセージ受付電話があるかどうか」電話調査を実施した。	通常のラジオ放送の合間に寄せられる聴取者からの電話をそのまま録音して編集して紹介する。データがあるので、それを集めてラジオ番組にしてしまうという意表を突いた企画で、人々の肉声をそのまま伝えて余すところがない。企画の勝利。

第４３回放送文化基金賞

「 番 組 部 門 」

演　技　賞

受　賞　者	対　象　番　組	選　考　理　由　等
満島（みつしま）　ひかり	土曜ドラマ トットてれび （ＮＨＫ） テレビドラマ番組	満島ひかり＝若き黒柳徹子という等式に誰もが魅了されただろう。黒柳徹子の魅力と才能を的確に示したのみならず、作品のメタドラマ性を膨らませた知性も評価したい。

演　技　賞

長谷川（はせがわ）　博己（ひろき）	土曜ドラマ 夏目漱石の妻 （ＮＨＫ） テレビドラマ番組	作品世界の全貌を知的に理解し、神経症を病んだ夏目漱石を緻密な分析に基づいて演じ切って説得力をもたせた。人間臭い、新しい漱石像を造形した。

演　出　賞

柴田（しばた）　岳志（たけし） 榎戸（えのきど）　崇泰（たかやす）	土曜ドラマ 夏目漱石の妻 （ＮＨＫ） テレビドラマ番組	美術、音響、衣裳、照明などいずれも極めて丁寧で高品位なスタッフワークをまとめあげ、主演二人の演技のすばらしい化学反応を引き出した。

制　作　賞

五百旗頭（いおきべ）　幸男（ゆきお）	はりぼて 腐敗議会と記者たちの攻防 （チューリップテレビ） ﾃﾚﾋﾞﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰ番組	地道な調査で富山市議会議員たちによる政務活動費の不正取得の実態を明らかにしていく過程はジャーナリズム精神のあるべき姿を示した。

映　像　賞

鈴木（すずき）　友史（ともふみ） 村井（むらい）　陽亮（ようすけ） 若松（わかまつ）　元明（もとあき） 周東（しゅうとう）　昭彦（あきひこ）	天空のお花畑　大雪山 “小さな賢者”の物語 （ＮＨＫ札幌放送局 ＮＨＫ旭川放送局） ﾃﾚﾋﾞｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ番組	4K 撮影やコマ撮りなどの技術を駆使し、じっくりと時間をかけて、息を呑むような美しい映像を作りあげた。

企　画　賞

笠原（かさはら）　公彦（きみひこ）	SBC ﾗｼﾞｵｽﾍﾟｼｬﾙ 受話器の向こうから ～026-237-0555 （信越放送） ラジオ番組	オペレーターという放送の裏方に焦点を当て、リスナーとの電話でのやり取りを題材にした意表をついた企画で、人々の肉声をそのまま伝えて余すところがない。

第４３回放送文化基金賞
「 個 人 ・ グ ル ー プ 部 門 」
― 放 送 文 化 ―

受　賞　者	業　績	業　績　内　容　・　選　考　理　由
宮﨑（みやざき）　賢（けん） （ＲＳＫプロビジョン カメラマン）	35 年にわたるハンセン病強制隔離の実態についての継続映像報道	1971 年山陽映画（現 RSK プロビジョン）入社。1982 年から 35 年にわたり、岡山県長島の国立ハンセン病療養所・長島愛生園でハンセン病患者が「島流し」にされた苦難の歴史とその証言を撮り続けてきた。これまで 12 本のドキュメンタリー番組と 120 本におよぶローカルニュース特集で、国の誤ったハンセン病強制隔離政策による人権侵害を告発。それらは島と本土を結ぶ「長島架橋」の開通、「らい予防法」の廃止にもつながった。長年にわたり取材をリードし、ハンセン病回復者をめぐる差別・偏見や法規制の打破に貢献した功績は大きい。

受　賞　者	業　績	業　績　内　容　・　選　考　理　由
阿武野（あぶの）　勝彦（かつひこ） （東海テレビ放送 プロデューサー）	優れたドキュメンタリー番組の制作、その多角的な展開と牽引	1981 年東海テレビ放送入社。全国放送の機会が少ない地方局制作のドキュメンタリー番組を映画化する取り組みのパイオニアである。東海テレビ放送では、2011 年の『平成ジレンマ』を皮切りに、今年公開された『人生フルーツ』まで、阿武野氏を中心に 7 年間で 10 作品を劇場公開し、好評を得てきた。この動きが刺激となり、近年 10 社を超える地方民放局が続々とドキュメンタリーの映画化に参入している。さらに番組の書籍化にも取り組むなど、大胆に多角的に活躍している。

受　賞　者	業　績	業　績　内　容　・　選　考　理　由
三宅（みやけ）　民夫（たみお） （ＮＨＫ　アナウンサー）	幅広い分野で卓越したアナウンス技術を発揮	1975 年ＮＨＫ入局。朝のニュース『おはよう日本』から紅白歌合戦などの芸能番組、ＮＨＫスペシャルといった大型企画番組まで幅広い分野で卓越したアナウンス技術を発揮してきた。飾らない人柄、温かみのある語り口、視聴者に話しかけるようなキャスターワークは、従来型の硬く予定調和的なものとは一線を画している。なかでも近年担当している討論番組での、参加者の本音を巧みに引き出し、問題の本質を明らかにしてゆく司会は見事である。

受　賞　者	業　績	業　績　内　容　・　選　考　理　由
「テレビ寺子屋」制作スタッフ （テレビ静岡）	40 年にわたり家庭教育について考える番組を制作	1977 年 4 月、30 分のレギュラー番組としてスタート。79 年には手話放送を開始。黒板の前に講師が立ち、観客の前で独自の教育論を展開する公開録画というシンプルなスタイルを 40 年間続け、2016 年 9 月には放送 2,000 回を達成した。“子育て”“教育”を軸に、近年は教育界のみならず、芸能、スポーツ、医学などさまざまな分野の講師が登場し、幅広い見地から各々の持論を展開。現代社会が抱える少子化や少年犯罪、家庭崩壊などの問題も取り上げ、時代に沿ったテーマで真摯に地域社会に向き合ってきた。

第４３回放送文化基金賞

「 個 人 ・ グ ル ー プ 部 門 」

― 放 送 技 術 ―

受 賞 者	業　　績	業 績 内 容 ・ 選 考 理 由
スーパーハイビジョン試験放送用受信機開発グループ （ＮＨＫ、シャープ） 代表　原　哲 （ＮＨＫ）	スーパーハイビジョン試験放送用高度 BS デジタル受信機の開発	昨年 8 月に開始された世界初の 8K スーパーハイビジョン試験放送用の受信機の開発を行い、日本全国での公開受信を実現させたことは、4K･8K 放送を広くアピールし普及を推進する上で基盤をなすものであり評価できる。さらに、今回の受信機の小型化・省電力化に必須の HEVC デコーダの LSI 化、運用規定の検証・改訂などは、受信機テストセンターの開設など実用放送に向けた今後の受信機開発に大きな貢献が期待できる。

受 賞 者	業　　績	業 績 内 容 ・ 選 考 理 由
SDI-Hyper 開発プロジェクト 代表　吉村　理希 (フジテレビジョン)	超高速データ伝送装置「SDI-Hyper」の開発	放送局が日常使用している既存の HD 素材回線を用いて、通信衛星を利用した映像素材伝送（SNG）の RF 信号（36MHz 帯域）や大容量の IP 信号のリアルタイム伝送を本装置で可能とさせた。これにより、①天候に左右されない SNG 伝送、②高品質・低遅延の 4K 伝送、③高速ファイル伝送（2 時間番組を 13 分で伝送）がいずれも低コストで実現できたことは評価できる。今後、広く放送事業者に活用されることが期待できる。

受 賞 者	業　　績	業 績 内 容 ・ 選 考 理 由
プロキシ編集プラットフォーム開発グループ 代表　小池　中 (関西テレビ放送)	アーカイブ統合型ニュース制作システム～プロキシ編集プラットフォームの開発	ニュース番組の制作において時間を経た映像素材（アーカイブ素材）は経済性の観点から直接編集ができないアーカイブエリアに置くため、編集を始めるまでに時間を要した。本装置は、全素材の低解像度映像（プロキシ）を常時編集可能なエリアに置き、まずプロキシで編集を開始、元の映像（ハイレゾ）が取り込まれ次第、自動的に元の映像に置き変わるもので、編集時間の大幅な短縮が可能となった。経済性を保ちつつニュース番組の速報性の向上を実現できたことは評価できる。

受 賞 者	業　　績	業 績 内 容 ・ 選 考 理 由
手話 CG 生成システム開発グループ 代表　東　真希子 （ＮＨＫ）	気象情報の手話 CG 生成システムの開発	生まれつき聴覚に障害のあるろう者の第一言語は手話であるが、手話通訳士の 24 時間の確保は困難な状況にある。警報・注意報を含む気象情報の 24 時間手話放送を実現するため、気象庁の電文から手話 CG を自動生成する装置を開発、今年 2 月から天気予報に関して NHK ホームページで一般公開、高い評価を得ている。すべての視聴者への放送サービスの伝達、情報バリアフリー社会実現へ向け評価でき、今後の拡充で一層の貢献が期待できる。